



やまな

袋井市立山名小学校
学校だより No.6
令和2年6月24日発行

6月も後半に入り、さらに暑い夏を迎えようとしています。学校再開から1か月がたち、新しい学級にもなれ、落ち着いて学習に取り組んでいます。9日(火)には、延期になっていた「1年生を迎える会」を運動場で行いました。会の中で、「さんぽ」の歌を贈りました。終了後も5年生からもらったメダルをうれしそうに眺める1年生の姿が見られました。この日のために、山名っ子委員会を中心に6年生が準備を進めてくれました。今後も、学習や生活の中で、きらり輝くことができるように教育活動を行っていきます。御理解・御協力の程、よろしくお願いたします。



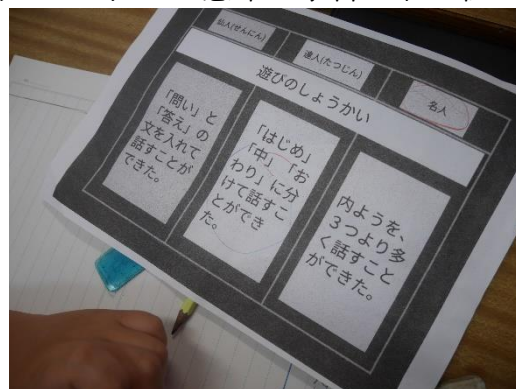
【思考スキル・ツールを生かした授業実践】

本校では、「考える力」を育成するために、思考スキル・ツールを生かした授業を行っています。この授業実践は、袋井市でも進められていることです。一口に「考える」といってもいろいろな考え方があります。袋井市で示している主な考え方は8つです。「比較する」「順序立てる」「理由づける」「分類する」「推論する」「多面的・多角的に見る」「構造化する」「評価する」があります。この考え方が「思考スキル」であり、考えを作り整理する図のようなものが「思考ツール」です。

22日(月)には、「思考スキル・ツール」の活用をさらに深めるために、鳴門教育大学の泰山裕先生をお迎えして研修を行いました。

まず、3年2組で牧野真典教諭による国語科の授業が行われました。子どもたちが遊んでみたい昔の遊びを、説明文で学習した文章構成(「はじめ」「中」「終わり」)で紹介し合う学習です。授業の始めに、どんな紹介の仕方がよいか、目指す姿を牧野教諭が示しました。この目指す姿のことをループリックとよんでいます。「内容を3つより多く話すことができた。」「『はじめ』『中』『終わり』に分けて話すことができた。」「『問い』と『答え』の文を入れて話すことができた。」の3つが示されました。子どもたちは、この姿を目指して、前時に書いておいた思考ツール「フィッシュボーン」を見ながら、友達に遊びを伝えていきました。授業の終わりの学習を振り返りでは、「上手に話すことができた。」「『はじめ』『中』『終わり』に分けて話すことができた。」等の感想が発表されました。たくさんの先生方が参観する中、目指す姿に向かって、一生懸命に学習に取り組むことができました。

子どもたちの帰宅後、泰山先生の講話が行われました。様々な教科で思考スキル・ツールを使うことで、教科が違っていても考え方(思考スキル)は同じということが実感でき、考え方(思考スキル)の習得や活用がなされるということや、ループリック(目指す姿)を子どもたちと考えたり共有したりすることで、子どもたちが前向きに学習に取り組むことができる等が、様々な例示によって確かめられました。





今後も、「思考スキル・ツール」を生かした授業実践を行い、子どもたちに「考える力」を身に付けさせ、「できた」「わかった」という意識を高めていきます。

【新型コロナウイルス感染予防に対応した袋井市学校教育ガイドライン】

「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル」に示されている「新しい生活様式」を踏まえた学校の行動基準では、現在地域の感染レベルについて「レベル1」相当と考えられることから、感染リスクが高い学習活動についても、可能な限り感染症対策を行った上で実施可能となりました。具体的には、以下のような活動です。

- ・各教科等に共通する活動として「児童生徒が長時間、密集又は近距離で対面形式となるグループワーク等」及び「近距離で一斉に大きな声で話す活動」
- ・理科における「児童生徒同士が近距離で活動する実験や観察」
- ・音楽における「室内で児童生徒が近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」
- ・図画工作、美術、工芸における「児童生徒同士が近距離で活動する共同制作等の表現や鑑賞の活動」
- ・家庭、技術・家庭における「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」
- ・体育・保健体育における「児童生徒が密集する運動」や「近距離で組み合ったり接触したりする運動」

また、学校行事にあたっては、可能な限り感染症対策を行った上で実施可能となっています。今後も、3条件（「密閉」「密集」「密接」）が同時に重なることがないように気を付けるとともに、児童に手洗いや咳エチケットを徹底するよう指導していきます。

【防犯訓練】

8日（月）に、スクールサポーターの森田和昌さんをお迎えして、学年団ごとに「防犯訓練」を行いました。「いかのおすし」（いかない、乗らない、大きな声を出す、すぐ逃げる、知らせる）を一つずつ丁寧に、教えてくださいました。コロナウイルス感染予防のため例年のように全員で大きな声を出すことはできませんでしたが、代表の児童が演技をすることをとおして、「いかのおすし」をどのように行うのかを理解することができました。いざというとき、自分の身を自分で守ることができるように、折に触れて学んだことを振り返っていきます。



【マスクの配付】

文部科学省から、一人一枚マスクが届きましたので、配付します。